

# H30学力向上アクションプラン(豊後大野市)

## 目標及び指標

- 【目標】 キャリア教育を通じた主体的な自己実現を目指して
- 授業の質の向上を目指した「主体的・対話的で深い学び」の実現
    - ・全国レベルの学力の定着
    - ・「学びに向かう力」の向上
  - カリキュラムマネジメントを通じた、学力向上の組織的な取組の構築

### 達成指標

### 取組指標

- 全国学力学習状況調査  
小・中とも全ての区分において全国平均以上
- 県学力定着状況調査  
小・中とも偏差値50以上

- 市学力向上研究指定校による研究の推進・授業公開(学力向上支援教員等)における取組の還流(小1校・中1校)
- 学力向上支援教員、習熟度別支援教員の活用 (年3回の授業公開及び研究会)  
小学校学力向上支援教員による他校訪問指導 (各校年2回以上)
- 市中学校学力向上教科部会の開催 (年2回) 三重総合高校との連携(三重総合高校へ参加要請)
- 学力向上推進委員会の開催 (学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員、市教委)(月1回)

- 低学力層  
(小:正答率50%、中40%未満)
- ・小学校  
低:5% 中:10% 高:15% 未満
- ・中学校 15%未満

- 習熟度別指導推進教員による授業公開 (年3回)
- 各校における補充学習の充実(小:放課後TRY 週1回、中:夏休みTRY 3~5日 の実施)
- 各校(各教科)における「評価基準」の研究と「努力を要する状況」の児童生徒への手立ての研究・市教委による学期毎のアンケート調査による把握と支援
- 三重中学校における教科部会の推進 (日課表での位置づけ)

- 全ての学校における学力向上に係る組織の確立
- 全ての学校への校内研究への支援(年2回以上 教育事務所との連携)

- 主要主任会議 年2回 (教務主任 研究主任)
- 市独自研修講座の開催 (全員1回以上の参加)
- 三重中学校における「中学校学力向上3つの提言」推進重点校における義務教育課指導主事による指導助言への同行。
- 校内研究に年2回以上の指導主事の参加において 指導・支援の実施。

## 行動計画

### ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について

- 学力向上支援教員による、単元構想を伴う授業公開の実施(年3回)。
- 小学校学力向上支援教員による校内研究時における学校訪問を含む他校訪問を通して、単元構想への支援の強化。
- 市教委による学期ごとの取り組みの調査による、運行管理。
  - 1 1時間完結型 ○「課題」の質の向上と整合性のある「まとめ」のある授業の質の向上。
    - 各教科における見方、考え方を働かせた教科横断的な視点を視点での授業展開の工夫
  - 2 板書の構造化 ○思考を整理するためのツール(思考ツール)の工夫。
  - 3 習熟の程度に応じた指導
    - 習熟度別指導推進教員による習熟の程度に応じた学習展開による授業公開による授業イメージの共有。
    - 授業中における、支援を要する児童・生徒に対する手立ての構築と、個別の学習指導計画のとの連動。
  - 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開
    - 主体的な学習を支える課題の質の向上と、意味のある「対話」による深い学びのある授業の構築
    - UDの視点から「新大分スタンダード」をとらえ、UDの良さを取り入れた授業展開の構築。

### ②「中学校学力向上3つの提言」に関して

- 『「中学校学力向上3つの提言」推進重点校』である三重中学校への支援
  - ・各教科部会への支援
  - ・タテ持ちへの支援
  - ・三重中学校における取組の共有と成果の普及(学力向上支援教員・習熟度別指導推進教員による授業公開や各教科部会での授業公開など)
- 1 組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底
  - 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業の充実を図るための、課題の質の向上。
  - 「授業改善の5点セット」と各教科との関連性の強化を図り、教科の壁を越えた互見授業の構築。
- 2 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
  - 教科部会との連携を強化し、教科指導力の向上を図る。
    - ・各教科における市独自テストの作問
    - ・ブロックによる教科部会の推進
    - ・三重中の教科部会と市での教科部会の連携
    - ・市教委による中学校学力向上会議を開催し、各教科部会との連携を深める。
- 3 「生徒と共に創る」授業の推進
  - 各中学校における生徒とともに創る授業」の取組の共有と、好事例の還流
  - 生徒会活動等との関連を活用しながら、「生徒とともに創る授業」を推進する。
  - 特別活動や各学校行事で付けたい力を明確にした取り組みや、生徒指導の側面からの「わかる」授業を構築し、「学びに向かう力」を醸成する。

### ③新学習指導要領の実施に関して

- 小学校外国語活動
  - 3・4年35時間、5・6年70時間の先行実施を行う。年間指導計画、授業のパターン化、クラスルームイングリッシュ等、市としての統一案を提示する。「英語教育検討委員会」(平成28年設置)において、情報の共有、取組の確認をしながら、外国語活動を推進する。
  - 外国語活動推進校を指定し、カリキュラムや時間の調整等、義務教育課や教育事務所とも連携をとりながら、32年度の本格実施にそなえ、取組を市内に還流する。
  - 市費による外国語活動教育支援員を配置(4人予定)。ALTを増員し(予定)、小学校での外国語活動への支援をおこなう。また、外国語活動における研修講座を引き続き開催し(平成29年より)、授業力の向上を目指す。
- 総合的な学習の時間
  - 市の教育方針に則り、キャリア教育の視点を取り入れ「郷土学」等を中心とした、総合的な学習の時間を推進する学校を指定し、新学習指導要領との関連を図り教科横断的な単元計画や、学校教育目標との関連、育成する資質、能力を明らかにした年間指導計画等の研究を推進し、市内の学校への普及を図る。
  - 特別の教科道徳の研究指定校を設置し、研究の成果を市内に普及する。
  - 連携型小・中一貫教育及び豊後大野市型コミュニティ・スクールの充実
    - 市では、全小・中学校をコミュニティ・スクールとして指定し、小・中連携での協議会を各中学校区に設置している。これまで、5町において市の指定で研究を進めている。29年度中にこれまでの見直しを行い、来年度からは多数の小学校設置の三重町に支援に入り、三重町での取組の強化を図るとともに、地域とともにある学校づくりを目指す。また、同時に進めている連携型小・中一貫教育についても、各地区の実態に即した取組を推進し、学びに向かう力の醸成、学力・体力の向上に取り組む。
- 市独自各学力調査の実施
  - <小学校> 4・5年定期学力調査 国語・算数 年 2回ずつ 作成:学力向上支援教員等  
1年~6年 市費による学力調査 国語・算数 (1月)
  - <中学校>
    - 中1:市費による全教科 標準テストの実施 (2月)、中2:各教科部会作成による 到達テスト (2月)
    - 中3:各教科部会作成による実力テスト (8月)
- 市学力向上指定校(小1・中1)、学校図書館活用教育推進校の指定
- 教育援助員予定数 (33人予定) 市担教員 (16人 予定)